

1 研究主題

『豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育』 <自立・協働・創造>

2 研究の基本目標

第11期の全国統一研究主題において、「豊かな人間性」とは、「生きる力」の中で示された自らを律しつつ他者とともに協調し、他者を思いやる心、人間としてのやさしさや人との絆、きめ細かな感性であり、「創造性」とは、学んだことを生かして新しいものを生み出す知恵、困難な中にもあっても、立ち上がり何かをつかみ成そうとする意欲と定義されています。「未来を拓く学校教育」とは、現在の児童が成人して社会で活躍する10～20年後の社会を見据え、その社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指しています。また、キーワードとして「自立・協働・創造」を設定し、生涯学習社会の構築に向け、学校教育においても子どもたち一人ひとりが多様な個性・能力を伸ばすこと(自立)、個人や社会の多様性を尊重しともに支え合い高め合いながら(協働)、新たな価値を創造していく(創造)ことのできる資質・能力の育成を目指します。

福岡で学び育った子どもたちが、自立して生きる力をもち、地域を支え発展させ、国際社会をリードしている将来を想像した時、私たち副校長・教頭の責任とやり甲斐の大きさを感じます。

そこで、本会においてもこの研究主題を受け、その達成に向けて副校長・教頭としてのリーダーシップの発揮や職務遂行にあたっての自覚をもち、自らの資質・能力の研鑽等を含め、研究を深めていくことが学校運営を担う副校長・教頭の責務と考えます。

以上のことから、次の3点を研究の基本目標として設定します。

- 教育理念に基づく学校教育の実現
 - ・ 特色ある学校づくりを展開し、生きる力を育む学校教育の実現をめざす。
- 副校長・教頭としての力量を高める研究・研修の充実
 - ・ 広い視野に立って学校運営が行えるよう、学校教育に対する識見を深める。
- 学校の社会的役割の推進
 - ・ 国民の期待に応える魅力ある豊かな学校づくりを推進する。

3 研究の基本方針

(1) 学校教育の課題を解明する

私たちの研究は、時代の要請と国民の期待に応え、地域社会と深く関わり、学校教育目標を達成することを目的とする。そのため、自ら職能を高め、課題の解決に努める。

(2) 副校長・教頭の職務内容を追究する

副校長・教頭としてのかかわりを大切にし、その職務内容を実践的に追究する。

(3) 研究を組織的に推進する

各地区(ブロック)教頭会では、全国公立学校教頭会及び九州公立学校教頭会との密接な連携のもとに研究組織体制を確立し、組織的に研究を推進する。

(4) 研究を継続的に推進する

研究の成果と課題を確認して継続的に研究を推進し、研究成果を研究大会で会員に報告するとともに、新しい視点で九州・全国へ発信する。

(5) 研究成果を要請活動に生かす

研究と政策提言活動(要請活動)は全公教の両輪である。研究の成果を要請活動等に生かし、教育環境の整備に役立てていくよう努める。

4 研究内容及び研究方法

(1) 副校長職・教頭職としての研究活動を推進する

- ① 福岡県公立小学校教頭会研究大会を開催し、副校長職・教頭職としての資質の向上を図るとともに、研究集録を刊行する。
 - 研究主題は「第11期全国統一研究主題」に基づいて設定する。
 - 各地区は「全国共通研究課題」に基づき、地区分担に従って研究を深める。
- ② 県内6ブロック、2政令市で地区別に研究大会を開催して研究課題の研究を推進する。
- ③ 第60回全国公立学校教頭会研究大会（札幌大会）、第58回九州地区公立学校教頭会研究大会（長崎大会）に参加し、積極的な提言と意見交換等を行い、研究大会の充実を図る。
- ④ 県教育委員会及び政令市教育委員会主催の研究会に積極的に参加し、次の世代の教職員の育成を図る。

(2) 県小学校教頭会の組織・運営及び活動の充実を図る

- ① 全国公立学校教頭会及び九州地区公立学校教頭会との連携を密にして組織的に研究を推進する。
- ② 県小学校教頭会理事会及び研究部長会を開催し、各郡市間の交流を深める。
- ③ 県中学校教頭会との連携を密にして交流を深める。

(3) 副校長・教頭の職務内容の確立を図るとともに処遇の改善に努める

- ① 副校長・教頭としての明確な職務内容の確立するとともに諸条件の整備に努める。
- ② 副校長・教頭の待遇改善に努める。

(4) 教育関係諸団体との密接な連絡・連携を図る

- ① 県当局及び県議会、県教委連絡協議会、県小学校校長会との連携を強化する。
- ② その他関係団体との連絡調整に努める。
 - * 副校長・教頭に関する諸問題は、県教育委員会と事前に協議を行う。

(5) 研究大会開催に関する改革の実施

- ① 「代表参加制」
 - 参加者は、各都道府県教頭会を代表して参加することから参加者の意識を高め、質の高い研究討議により研究を深める。
- ② 「参加型の分科会」
 - 発表を聞くという受け身の参加でなく、参加者自身が主体的な学習者になる。

(6) 全国共通課題（6課題）を創造的、実践的に進める。

第1課題 教育課程に関する課題

- 学校教育の根幹をなす教育課程に関する課題。教育課程、編制、実施、評価、改善など多岐にわたる内容を包含しており、学習指導要領の理念を、副校長・教頭として積極的に編制、実施にどのように取り組むか。

第2課題 子どもの発達に関する課題

- 児童理解に立ち、校内指導体制の確立を軸に、副校長・教頭としてどのように取り組むか。

第3課題 教育環境整備に関する課題

- 学校と家庭及び地域社会との連携を明らかにして、副校長・教頭としてどのように取り組むか。施設・設備の効果的な活用、安全の保持、教材教具、ICT等の教育機器の整備充実、文書事務、経理事務の適正な運営と管理などをどのように進めていくか。

第4課題 組織・運営に関する課題

- 運営や組織マネジメントに、副校長・教頭としてどのように取り組むか。
- 開かれた信頼される学校づくりをどのように進めていくか。

第5課題 教職員の専門性に関する課題

- 教職員のもち味を生かしながら、教職員の資質向上を図るために、副校長・教頭としてどのように取り組むか。
- 教職員の資質向上を図るための研修、職務意識の高揚、服務規律の徹底、ミドルリーダーの育成をどのように進めていくか。

第6課題 副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題

- 校長を助ける管理職としての立場を自覚し、副校長・教頭としてどのように取り組むか。
- 学校における働き方改革、効率的で働きがいのある職場環境づくりにどのように取り組むか。